

# 農政課 ☎23-3517

## 農政課 23-3517

### 農政課 ☎23-3517

#### 農政課 ☎23-3517

##### 農政課 ☎23-3517

###### 農政課 ☎23-3517

## 田原市の花を世界へ

令和6年度にJA愛知みなみのグロリオサとスイートピーがフラッグシップ輸出産地として認定されました。

フラッグシップ輸出産地とは、海外の規制やニーズに対応して継続的に輸出に取り組み、「輸出取組の手本となる産地」を農林水産大臣が認定する制度です。

今回は、JA愛知みなみの取り組みを中心に、田原市における花きの輸出について紹介します。

### ◆GFP産地生産基盤強化プロジェクト

JA愛知みなみ花き連絡協議会では、国の補助事業を活用し、グロリオサの生産拡大に向けたマニュアル作成や夏場の高温対策の実証を行いました。また、輪菊の海外輸出を目指し、白さび病予防の検討や園地登録を進めるなど、輸出体制の整備にも取り組みました。

その結果、本年1月に米国向けの

試験輸出を実施できました。今後、中国産が出回りにくい米国市場で需要を探り、ブランド化を進めて、将来的には年間数十万本の出荷を目指します。

さらに同

月末には、アメリカ大使館の検疫関係者らが生産・出荷状況を視察し、JAと生産者が、田原の花の魅力在海外へPRする貴重な機会となりました。



▲米大使館視察の様子

### ◆国内外に向けた消費宣伝活動

昨年引き続き、横浜市の象の鼻テラスで「MINAMI Flower Days」を開催しました。日本一の花き生産量を誇る田原市とJA愛知みなみが、2027年の国際園芸博覧会を見据え、500品種以上の花々を展示・紹介しました。

会場では花マルシェを開催し、市場関係者や花店、来場者との交流や多彩な花々をアート空間として演出するなど、新たな花の魅力発信に挑戦しました。



▲MINAMI Flower Days

当日は多くの来場者でにぎわい、田原産の高品質な花の魅力を広くPRすることができました。

### ◆今後の取り組み

国の成長戦略では、2030年までに農林水産物・食品の輸出額を5兆円に拡大する目標が掲げられています。国内人口の減少により市場縮小が見込まれる中、人口増加や経済成長が期待される国への販路拡大は重要な取り組みです。

日本一の花き産地として、国内外の消費者に田原市の高品質な花を届け、需要が減少する中でも選ばれる産地となるよう、今後も販路拡大に取り組みしていきます。

今月の花

4月の

## 渥美半島の花と鉢花

### カスミソウ

(花／出荷時期:10月～6月)

花ことば

清らかな心

たくさんの小花がかわいらしい花。県内1位の出荷量で、年間約92万本出荷されています。



### アジサイ

(鉢物／出荷時期:2月～7月)

鉢花ことば

移り気、冷淡

母の日の贈り物としても人気です。県内1位の出荷量で、年間約130万鉢出荷されています。

